

平成 22 年度 活動 報告

1. 平成 22 年度活動の基本方針

個人の生活や企業活動という身近な生活・地域社会に対して、地球温暖化防止と持続可能な地域社会の構築をめざし、新エネルギーの技術開発、普及活動及び技術支援等、CO₂排出権取引等の温暖化防止メカニズムの研究および普及促進等の事業を行い、地域社会の経済振興と地球環境保全の推進に寄与することを方針とする。

その 1 地域に根ざした循環型の新エネルギーでCO₂抑制に寄与

その 2 CO₂排出権取引をはじめ、あたらしいメカニズム・システムの開発・普及

その 3 市民、企業等の緑化推進・循環型社会構築等に関わる社会貢献活動の普及・促進

2. 平成 22 年度の事業実績概要

今期は、設立から 8 年目を迎え、昨年度に引き続き指定管理者プロジェクトにおいて施設の指定管理者を行うとともに、エコドライブプロジェクトやながのエコシティプロジェクトを実施し、さらには長野県から「家庭の省エネ“見える”化事業」を受託するなどして、事業の幅を広げることができた。関係機関等外部協力者の連携をはじめ、事業や普及啓発活動において、臨機に対応を検討しながら、成果を残すことができた。

昨年に引き続き指定管理者として運営しているリサイクルプラザに 6 名の常勤スタッフを配置したほか、事務局アシスタントに 2 名の計 8 名の有給雇用職員（パート勤務含む）の体制とした。

さらに、平成 22 年度から受託している長野県家庭の省エネ“見える化”事業を実施するため、委託仕様書に基づき省エネアドバイザー 4 名、事務局スタッフ 1 名を雇用した。なお、本事業は平成 23 年度も継続契約し、5 名の雇用契約を継続するとともに、新たに省エネコーディネータ 1 名と支援スタッフ 1 名を増員している。

（参考 1 会員現況 平成 23 年 6 月 4 日現在）

1. 正会員（個人会員）	21 名
2. 正会員（法人会員）	10 社
3. 一般会員	2 名
4. 賛助会員	0 名
5. アドバイザー会員	8 名

合計 43 名（法人会員代表を含めて 67 名）

※正会員（個人会員） 1 名増、1 名減、正会員（法人会員） 1 団体減

（参考 2 法人会員について）

- ①法人会員については、その法人に属する 5 名まで名簿に記載することができます。
- ②法人会員の議決権は 1 法人あたり、申し込み時に登録した代表者の 1 票とします。
- ③当 NPO 法人と業務委託等の契約を行う場合は、登録された会員名を基本とします。したがって、会社等の組織と契約を締結するには、法人会員であることを原則とします。

3. 活動の成果

今年度は、(1) 温暖化防止対策に関する普及・啓発を図る事業、(2) 地球温暖化防止に関する調査・研究事業、(3) 自然エネルギーの導入に関する技術支援・コンサルティング、調査、研究事業、(4) 自然エネルギー・地球温暖化・緑化推進に関するセミナー・シンポジウム・ワークショップの企画・運営、(5) 自然エネルギー・地球温暖化・緑化推進に関する講師派遣・技術者派遣、(6) 環境保全に関する施設・装置の企画・設計・施工・監理に関する事業、(7) 公共施設の維持・管理・運営を行政と協働で行う事業の7事業を行った。

それぞれの内容について、事業ごとに整理する。

(1) 温暖化防止対策に関する普及・啓発を図る事業

① イベントによる普及・啓発事業

信州環境フェア 2010 やながの環境フェア 2010 などのイベントに、雨水循環利用、自然エネルギー利用、県産材を利用した家づくり、ダンボール・木材によるクラフトなどの展示物や体験コーナーを出展して、地球温暖化防止対策に関する普及啓発活動を行った。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	概要
2010/8/21 ～8/22	信州環境フェア2010	長野市ビッグハット	展示ブース来場者 420名
2010/9/5	ながの環境フェア2010	長野市清掃センター	全参加者 5,700名 ※指定管理者
2010/9/19	eながのフェスタ	長野市ビッグハット	展示ブース来場者 420名

② メディア連携支援

環境省の「平成 23 年度 地球温暖化防止に係る国民運動における NPO・NGO 等の民間団体とメディアとの連携支援事業」に廃材アート実行委員会『ゴミがアートに大変身！分別とゴミダイエットで地球温暖化防止』が採択となり、その運営支援としてイベントを開催した。

(2) 地球温暖化防止に関する調査・研究事業

① 県産材利用プロジェクト

地域産の木材の活用を普及させるため、『信州環境フェア 2010』、『ながの環境フェア 2010』に展示ブースを出展し、様々な視点から作られたパネルの展示とパンフレットの配布を行った。

- 『省エネ住宅スタイル』: 省エネ住宅の提案から地域産木材を使いながらコストをおさえる工夫の提案
- 『信州ログスタイル』: 地域産木材を使ったログハウスの提案
- 『小さな住まいのすすめ』: リフォームと同金額で建設可能な小さくても高齢化社会に対応した地域産木材を使った生活空間の提案
- 『古民家木材でつくる家づくり』: 古民家木材の利用促進や古材利用の注意事項等

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	概要
2010/8/21 ～8/22	信州環境フェア2010	ビッグハット	展示ブース 来場者 420名
2010/9/5	ながの環境フェア2010	長野市清掃センター	全参加者 5,700名 ※指定管理者

②エコドライブプロジェクト

車の保有台数が多い長野県における運輸部門のCO₂削減を目指し、エコカーの活動をきっかけに、「環境」と「技術」の両分野に係わる技術者の育成を、地域が支えながら実践していこうと、『エコマラソン 2010 長野』を開催した。今年度が第4回となる長野大会では、エムウェーブを会場として全国大会の燃費競技に準拠した燃費計測会を行った。記録は778.17km/lと県内チームの最高記録が生まれた。また、他の協力団体の参加により、エコカー体験、ソーラーカーの試乗体験、セグウェイ体験など、楽しみながらできる環境に関する普及啓発活動を行い、大勢の参加があった。また、今回は環境や地域づくりに関心のある市民層にも活動を知ってもらう目的から、「トヨタ財団地域社会プログラム公募説明会」や「ダンボールの世界で遊ぼう!」、「花と緑の学習会」、「クレマチス販売会」、「家庭の省エネ見える化 ～エコとく講習会～」などを同時開催し、前回参加者数(480人)を大きく上回る3,000人の参加があった。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	概要
2010/9/18 ～9/19	エコマラソン 2010 長野	エムウェーブ	参加者 3,000 名

③ESD(持続可能な開発のための教育)・環境教育プロジェクト

国立長野高専等と協働で行う事業であり、身近な里山の手入れなどの環境学習を行った。これらの活動を通じて、参加者が長野の森林を身近に感じ、そして後世に継承する大切な資源であることを実感するとともに、森林保全に向けた普及啓発を行った。本事業に関する講師派遣については、「(4)自然エネルギー・地球温暖化・緑化推進に関するセミナー・シンポジウム・ワークショップの企画・運営」、(5)自然エネルギー・地球温暖化・緑化推進に関する講師派遣・技術者派遣」の項目でまとめている。

(3)自然エネルギーの導入に関する技術支援・コンサルティング、調査、研究事業

①NPO活動促進プロジェクト

地域や自然環境の保全などに取り組むNPO活動を支援するための助成制度に6件応募(うち1件は継続事業)し、6件が採択された。全て平成22年度事業として実施した。各事業の実施内容については、各事業の該当する項目で説明する。

●トヨタ財団 2008 年度地域社会プログラム (2009 年度、2010 年度の 2 カ年事業)

申請先：財団法人トヨタ財団

テーマ：「環境・モノ」づくり長野ー地域で支える世界に羽ばたく次世代を育てよう！ー

内容：長野市には、「エコカーづくり」による環境と地域を担う次世代の育成活動に取り組む学校がある。県立長野工業高校、国立長野高専や社会人などのチームもエコカーづくりの活動を行っており、これまでもエコカーづくりをしている学校の教員で「エコマラソン実行委員会」を組織し、エコカーの燃費計測会や交流会を開催してきた。こうした取り組みは、市民や地域、行政が連携・協働によって支援していくことにより、地域における次世代の育成や環境保全の意識啓発を進展させ、継続させていくことができるものと考えられる。

1 昨年、長野市では、市民、市民団体、行政等が協働して市民事業を行う「ながのエコシティプロジェクト推進協議会」が設立され、太陽光市民発電所や森のエネルギー活用といった環境保全活動の普及啓発事業を行ってきた。

本プロジェクトでは、この組織による活動を広げ、地域を担う次世代の育成と

環境保全活動を、地域社会で支え広げるための仕組みづくりを行う。

申請は、協議会事務局として当NPOが応募し、採択となった。

助成額：4,000,000円（2ヵ年：初年度2,000千円、次年度2,000千円）

実施機関：平成21年4月1日～平成23年3月31日

- 家電エコポイント事業における環境寄付、住宅エコポイント事業における環境寄付
申請先：グリーン家電エコポイント事務局、住宅エコポイント事務局
内 容：エコポイントの活用による、普及促進事業について、事業に基づく環境寄付対象団体に応募し、採択となった。今後、配分される寄付金額に応じて、森づくりなどの活動を実施する。平成23年度に繰越して開催予定。
助成額：家電エコポイント事業 372,210円
住宅エコポイント事業 4,482円

- 平成22年度 地球温暖化防止活動実践普及事業補助金
申請先：長野県地球温暖化防止活動推進センター
内 容：省エネルギーによる地球温暖化防止活動（エコマラソン）と、森づくりによる地球温暖化防止活動の2つの活動について応募し、採択となった。
助成額：400,000円
実施期間：平成22年6月～平成23年2月28日

- 平成22年度 緑の募金公募事業交付金
申請先：財団法人長野県緑の基金理事長
テーマ：森林の整備と森と親しむ活動
内 容：長野県内の森林をフィールドとして、学生や社会人を対象とした森林整備・森づくりによる自然環境プログラムを実施する。間伐体験から薪作り、さらに、森の仕組み（炭素固定）などを体感する実験、ペレットオープンを使った体験などを実施する。長野市茶臼山と青木村十観山の里山における森づくり活動について応募し、採択となった。
助成額：200,000円
実施期間：平成22年8月～平成22年12月

- 平成22年度 長野市地球温暖化対策活動支援金
申請先：長野市地球温暖化防止活動推進センター
テーマ：「廃材アート2011」
内 容：身近な不用品をアート作品にすることで、不用品についての新たな価値を生み出しつつ不用品に対する見方を変え、ゴミの減量化やリサイクルの促進について広く普及・啓発活動を実施する。昨年に引き続き、実行委員会形式の運営（補助対象事業）とし、リサイクルプラザの自主事業と連携しながら開催する。申請者は実行委員会とし、本NPOが事務局として応募し、採択となった。
助成額：185,000円
実施期間：平成23年2月13日～平成23年2月27日

- 平成22年度 長野市芸術文化振興事業
申請先：長野市芸術文化振興基金運営委員会
テーマ：「廃材アート2011」
内 容：事業内容は⑤と同じ。申請者は実行委員会とし、本NPOが事務局として応募し、採択となった。※本助成金での対象は廃材アート2011のチラシ代の一部のみ。
助成額：80,000円
実施期間：平成22年9月28日～平成23年3月31日

※業務支援を行っている実行委員会名義で採択になった助成は記載していない。

②技術支援業務

②-1 長野市緑と花いっぱいの会

長野市緑と花いっぱいの会は、会員の会費と（財）長野市都市緑化基金からの補助金を主

な活動財源として、市民主体の緑化活動を展開するため、会員に対して花苗等の育成や技術向上のための講習会の開催などを実施している。昨年度からその事務局を当NPOが受託し、ながのウェルカムガーデンとともに都市緑化の実践活動を行っている団体の運営支援をしている。

②-2 ながのウェルカムガーデン

長野駅前およびJR長野駅コンコースにおいて、平成22年10月1日から11月30日までの間、コンテナガーデンによる都市緑化の普及啓発イベントの企画に参加した。会期は信州DC（ディスティネーションキャンペーン）の時期に合わせ、多くの市民、来訪者に対して、花と緑でお出迎えするイメージアップとともに都市緑化の普及啓発を行った。当事業は長野県の「地域発 元気づくり支援金事業」により運営しており、申請団体は、ながのウェルカムガーデン実行委員会。当団体は事務局として参加している。

②-3 里山エコミュージアムによる十観山の環境保全

長野県青木村において、地域に親しまれている十観山および周辺地域を対象として、地域住民、市民団体と専門家、学校等が連携し、自然環境に関する調査、研究を行いながら、環境保全活動の実践と普及啓発活動、環境教育支援等に取り組むとともに、地域住民と協力団体・専門家・地域外の人々の連携と、活動による交流を実現し、持続的な協働モデルを構築するための活動をおこなった。当事業は長野県の「地域発 元気づくり支援金事業」により運営しており、申請団体は十観山の自然と親しむ会。当団体は事務局として参加している。

②-4 戸隠エコ・ネットワークによる戸隠高原の環境保全

地元のみならず国内外から多くの観光利用者の来訪する戸隠高原の自然環境の保全と適正な利用をめざし、地域住民、市民団体と専門家、学校等が連携し、自然的資源・社会的資源に関する調査、研究を行いながら、環境保全活動の実践と普及啓発活動、環境教育支援等に取り組んだ。市民と協力団体・専門家・地域外の人々の連携と、活動による交流を実現し、持続的な協働モデルを構築していく。当事業は長野県の「地域発 元気づくり支援金事業」により運営しており、申請団体は戸隠エコ・ネットワークの会。当団体は事務局として参加している。

（4）自然エネルギー・地球温暖化防止・緑化推進に関するセミナー・シンポジウム・ワークショップの企画・運営

①家庭の省エネ“見える”化事業

平成22年度に長野県（環境部）からプロポーザルで特定され受託した業務。本業務では特に家庭における省エネを促進するために、省エネに関する知識と技能に優れた省エネアドバイザーを雇用し、県内各地で無料講習会（エコとく講習会）や無料訪問診断を開催した。

本業務の主たる目的は、診断を希望する家庭を訪問して、家電機器やガス機器、自動車の使用状況を確認し、ライフスタイルやライフステージに応じた省エネの手法や知識をアドバイスすることにより、家庭からの温室効果ガスの削減を図ることである。業務仕様書では、エコとく講習会を年に120回、エコとく診断を年に200回実施することが目標であり、本年度はその回数を上回る成果が得られた。

また、行政機関や市民団体などが開催する環境に関するイベント等にも参加し、家庭部門のエネルギー使用量、CO₂排出量の現状、省エネの必要性などの普及啓発も実施した。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	摘要
2010/6/15 ~ 2011/3/31	エコとく講習会	県内全域	158回 参加者 7,152人
2010/6/15 ~ 2011/3/31	エコとく診断	県内全域	222回 (222世帯)
2010/6/15 ~ 2011/3/31	イベント等普及啓発	県内全域	11回 来場者 626人

②森の恵体験～森づくりと森のエネルギー利用促進

『薪づくり！森を育てよう！』イベント

健全な森を育てるには間伐したり外来種を駆除する必要がある。さらに伐採した樹木を燃料にすることで、地球温暖化防止につながる木質バイオマス利用になる。このプロジェクトは薪ストーブユーザーが間伐などで森を育てながら薪をつくることで地域に根ざした再生可能エネルギー資源循環を実現するとりくみを促進した。今年のイベントでは、延べ56人の市民の参加者により、ニセアカシアなどを間伐し、これらを木質バイオマスエネルギー（薪）にし、活用することができた。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	摘要
2010/10/30	「薪をつくろう！森を育てよう」イベント	青木村	参加者 12名
2010/11/27	「薪をつくろう！森を育てよう」イベント	長野市茶臼山公園	参加者 22名
2010/11/28	「薪をつくろう！森を育てよう」イベント	青木村	参加者 22名

(5) 自然エネルギー・地球温暖化防止・緑化推進に関する講師派遣・技術者派遣

長野県、長野市などで開催された委員会や環境学習に講師を派遣し、活動支援を行った。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	摘要
2010/7/6	協働でつくる身近な環境保全活動 (講演とワークショップ体験)	信州大学附属長野 中学校	講師 1 名 参加者 200 名
2010/11/10	長野市産業振興審議会 林業振興専門分科会 (長野市委嘱)	長野市役所	委員 1 名
2011/12/17	長野県移動性・安全性向上検討委員会 (国土交通省長野国道事務所・長野県 委嘱)	長野県庁	委員 1 名
2011/2/8	長野市バイオマスタウン構想推進協議会準備会 (長野市委嘱)	長野市役所	委員 1 名
2011/2/22	長野市産業振興審議会 林業振興専門分科会 (長野市委嘱)	長野市役所	委員 1 名
2011/2/25	長野県自然エネルギー協議会準備会	長野県環境保全協 会	委員 1 名
2011/3/18	長野市バイオマスタウン構想推進協議会準備会 (長野市委嘱)	長野市役所	委員 1 名

(6) 環境保全に関する施設・装置の企画・設計・施工・監理に関する事業

①雨水循環利用プロジェクト

昨年度に引き続き、雨水循環利用の普及啓発活動を実施した。今年度の雨水タンクの設置はなかったが、手押しポンプの販売が 1 件あった。

②森のエネルギー推進プロジェクト

化石燃料に替わる木質系バイオマスであるペレットと、これを利用するストーブの普及による森と街を資源循環でつなぐことを目指し、普及啓発活動を行った。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	摘要
2010 年度	ペレットストーブ設置	長野市内 1 箇所	長野市更北支所
2010 年度	ペレット販売	事務局	1,553 袋

③ながのエコシティプロジェクト

1 昨年から継続実施している「ながのエコシティプロジェクト」は、長野市環境部と連携しながら企画し、環境省の平成 19 年度「環境と経済の好循環のまちモデル事業」の地域として全国 7 地域のひとつとして選定された。本事業は、当団体が事務局となり、市民団体・環境団体・長野市役所等で構成されるまちづくり協議会『ながのエコシティプロジェクト推進協議会』によって推進している（3 年間）。

(7) 公共施設の維持・管理・運営を行政と協働で行う事業

指定管理者プロジェクト

本NPOの事業目的である「公共施設の維持・管理・運営を行政と協働で行う」を実践するため、施設の指定管理者として、公共施設の利用促進・利用者へのサービス向上を目指し、NPOと行政機関との協働で維持・管理・運営を行った。

①長野市リサイクルプラザ

リサイクルの情報発信地として、情報コーナー・レインボー広場などのごみの減量・再利用の情報、体験講座・教室などの提供、リサイクル広場での不用品の展示・提供、さらにリサイクルを推進する市民グループ（リサイクル連絡会）に活動の場を提供している。

■活動内容一覧

実施日時	事業内容	実施場所	摘要
2010/4/1 ～2011/3/31	施設利用者	長野市リサイクルプラザ	利用者総数 29,100名
2010/4/2 ～2011/3/27	ボランティア団体利用 (リサイクル連絡会 13グループ)	長野市リサイクルプラザ	利用者 1,042名
2010/4/5 ～2011/3/24	ゆめ工房 2 1 体験講座 (6グループで 46 回開催)	長野市リサイクルプラザ	参加者 577名
2010/6 2011/2	着物のリフォーム教室 (4週連続の日曜日)	長野市リサイクルプラザ	参加者 118名
2010/5, 7, 9, 11 2011/1, 3	リサイクル広場 (奇数月に 6 回開催)	長野市リサイクルプラザ	利用者 3,467名
2010/4/10 ～2011/3/26	自主事業 26 回開催 (出前講座 3 回他)	長野市リサイクルプラザ	参加者 3,187名
2010/8/6 ～2010/8/8	『ダンボールの世界で遊ぼう』	長野市リサイクルプラザ	参加者 5,500名
2011/2/13 ～2011/2/27	『廃材アート 2011』 不用品からのメッセージ	長野市リサイクルプラザ	参加者 604名
2010/5, 6, 9, 10, 2011/3	フリーマーケット 5 回開催 (1 回中止) (共催)	長野市リサイクルプラザ	参加者 4,300名
2010/9/5	ながの環境フェア 2010 開催 (共催)	長野市リサイクルプラザ	参加者 5,700名

『ダンボールの世界で遊ぼう』

資源や不用品に関心を持ち、資源の有効活用、ごみの減量化、リサイクルの促進につなげ、地球環境保全へと発展させていく目的でダンボールタウン製作委員会と共同で開催した。8月6日から8日まで開催し、延 5,500 名の来館者となり、夏休み期間中の子どもたちと家族が楽しくエコ体験することができた。

『廃材アート 2011』 廃材を利用したごみ減量化（環境）へのメッセージ

不用品を活用したアート作品により、ごみの減量化やリサイクルの促進を目的とした『廃材アート 2011』を、廃材アート実行委員会と共同で開催した。2月13日から27日まで出展者 24 名、出展作品 43 点で開催し、延べ 604 名の見学者となった。

特に、2月20日（日）には廃材アートが体験できるワークショップ（パッケージクラフト、切絵）を開催し 114 名の参加があった。長野市リサイクルプラザでの開催のほか、長野市役所に会場を移動して展示し、不用品を使つての作品が新鮮との反響が多く好評であった。